

小集会

1. ISC(国際柑橘学会)日本支部集会

日時: 3月24日(土) 12:15~13:15

場所: 教室棟307教室

世話人: 島田武彦(農研機構果樹茶部門) tshimada@affrc.go.jp

内容: 平成30年度 ISC(国際柑橘学会)日本支部総会の開催(支部会の活動報告、活動方針の審議・承認など)

2. 第49回「暮らしと園芸」を考える小集会

日時: 3月23日(金) 16:00~17:30

場所: 教室棟207教室

世話人: 松尾英輔(前東京農業大) a169sa@tsm.bbiq.jp

内容:

「市民に対する園芸相談・園芸講座を通して見えるもの」

元奈良県農業大学校、一般社団法人フラワーツサイエティ 横井邦彦

10数年間ほどに私が関わった相談や講習会、市民対象の園芸大学・花と緑の学び舎などの感想を紹介します。植木市の相談では、高齢化によって庭木の管理ができない、植物や土の処分の方法についてなど、植物の栽培法よりも家庭内のみどり相談が増えてきた。園芸講座では、個人の枠を超えた園芸の領域の広さを話しているが、花好きの人はどうしても園芸を個人的な事象だと思っている。花とみどりにこんな領域もあるのだと驚き、再認識させられる経験は園芸家ならではのもの。園芸家の目で暮らし・世の中を見つめていきたい。

3. 園芸作物におけるDNAマーカー開発と利用

日時: 3月23日(金) 13:30~16:15

場所: 教室棟101教室

世話人: 五十鈴川寛司(山形農総研セ園芸試験場) isuzugawak@pref.yamagata.jp

内容: 「最新のゲノム解読技術と園芸作物におけるゲノム解読の現状」

(公財)かずさDNA研究所

白澤健太

「EUや日本におけるリンゴDNAマーカー開発と利用」

農研機構果樹茶部門

森谷茂樹

「キュウリ育種におけるDNAマーカー開発と利用」

(株)埼玉原種育成会

天野政史

「モモ育種におけるDNAマーカー開発と利用」

岡山農林水産総合生物科学研究所

小田賢司

「イチジク育種におけるゲノム情報の利用と課題」

福岡農林総合試験場

池上秀利

「オウトウ育種におけるDNAマーカー開発と利用～形質評価・マーカー開発・実生選抜～」

山形農総研セ園芸試験場

多田史人・五十鈴川寛司

4. 第10回伝統園芸研究会

日時: 3月23日(金) 15:00~18:00

場所: 大阪市立自然史博物館 集会室(〒546-0034 大阪府大阪市東住吉区長居公園1-23 Tel: 06-6697-6221, 地下鉄御堂筋線「長居駅」より徒歩10分) 大人300円の入館料で博物館、植物園内へも入場できます。早めに来てお楽しみください。

世話人: 細木高志(元島根大農学部) hosoki_takashi@kha.biglobe.ne.jp,

小林伸雄(島根大農学部) nkobayashi@life.shimane-u.ac.jp

内容:

「トルコギキョウの花色研究」

鹿児島大農学部

橋本文雄

トルコギキョウは昭和9年、カタログにキキョウと紹介されて以来、日本を中心に改良が進められてきました。

た. 種苗会社により700品種以上ものF1が育成され, 産業上, 作付け面積や産出額は日本の三大打り花に猛迫しています. 観賞園芸学研究室では21年間に亘り研究を行い, 花色と花弁色素との関係, 季咲き栽培と促成栽培による花色変化, キトサン処理による花芽成長等の基礎データを下に, 花弁の3種の主要アントシアニン色素の生合成が少なくとも4つの複対立遺伝子で制御されていることを見出し, これを技術化し育種を継続中です. 本講演では, これまでに明らかにした八重咲等の花冠形質を含む, 花色遺伝について解説させていただきます.

「常緑性黄色花ツツジ品種作出への試み」

琉球大農学部

嬉野健次

日本には, およそ40種のツツジ属植物が自生しています. 一般にツツジ, サツキと呼ばれている園芸植物は, ツツジ属のツツジ亜属の種同士の交配により成立したものであり, 園芸品種群として, クルメツツジ, キリシマツツジ, ヒラドツツジ, リュウキュウツツジ, サツキなどがあります. これらの特徴は, 常緑性の低木であり, 庭木などに利用されています. 花色は白, 桃~赤紫, 花型は小輪, 中輪, 大輪, 二重咲, 八重咲, しべ咲きなど多種多様な品種が存在します. しかし, 現在の常緑性ツツジ園芸品種では, 黄色花の品種は存在しません. 本講演では, これまで取り組んできた常緑性黄色花ツツジ品種の作出への試みに関する研究をまとめて発表します.

《見学会》ツバキ関係の世界的コレクションである岸川慎一郎椿蔵書 (<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/2/about/kanpo/40/04-p10-カラーページ.pdf>)と磯野直秀氏収集博物学関連文献資料「磯野文庫」(<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/2/about/kanpo/40/04-p09-カラーページ.pdf>)の見学会を行います. 案内: 大阪市立自然史博物館 佐久間大輔先生

5. 第19回ウリ科作物研究小集会

日時: 3月23日(金)15:00~17:00

場所: 教室棟208教室

世話人: 佐藤達雄(茨城大農学部) tatsuo.sato.strawberry@vc.ibaraki.ac.jp

内容:

「露地キュウリのかん水同時施肥栽培」

岩手農研セ

田代勇樹

「UV-B照射によるキュウリのうどんこ病抵抗性の誘導」

東京農工大院学連合農学研究科

アクバル ヌル

アロファトゥラ

「スイカとDNAマーカー」

(株)萩原農場

嶋本育泰

6. 園芸学とウイルス学の異分野融合研究会 #3

日時: 3月23日(金)12:00~16:00

場所: 教室棟201教室

世話人: 関根健太郎(琉球大農学部) k-sekine@agr.u-ryukyu.ac.jp

内容:

園芸作物における病害は, 栽培種の多様さや研究資源としての扱いにくさから, 未だ原因不明のものが多い. 特にウイルス性病害については, 極小な病原体であることや, 病原性の証明が困難であるために, 病害防除の大きな障壁となっている. 近年の分子生物学の発展により, ウイルスは比較的見つけやすくなる一方で, その取り扱いに困る場面も増えている. また, 公設試験研究機関では個々の業務が過剰であるために, 本来は病害担当者が取り組むべき課題であっても, 園芸学会をフィールドとする栽培や育種の担当者が対応に追われている社会的な背景もある. 本小集会では, ウイルス学分野から新たな技術や研究への利活用方法の情報を共有することで, 我が国の農業の発展に資する園芸学の分野の中で課題を見出し, また園芸学の洗練された技術と融合することで, 課題の効率的な解決を目指す一助とする.

講演1 「奈良県でのダリアのウイルス病の診断と対策」 12:00 - 12:25

奈良農研開セ

浅野峻介

講演2 「果菜類におけるベゴモウイルス抵抗性品種育成に向けて」 12:25 - 12:50

近畿大農学部

小枝壮太

講演3 「植物ウイルス学研究の『レッドリスト化』と将来展望」 13:00 - 13:20

東京農工大農学部

小松 健

講演4 「野生植物のバイロームと宿主応答をトランスクリプトームから捉える」 13:20 - 13:50

龍谷大農学部

永野 惇

| | | |
|---|--------------|-------|
| 講演5 「病原ウイルス探索 - コッホの壁に挑む - 」 14:05 - 14:20 | 琉球大農学部 | 関根健太郎 |
| 講演6 「レタスビッグベイン病 糸状菌媒介性ウイルスの話」 14:20 - 14:50 | 農研機構西日本農研 | 野見山孝司 |
| 講演7 「異科接木で拓く未来」 15:00 - 15:30 | 名古屋大院生命農学研究科 | 野田口理孝 |
| 講演8 「高等学校における科学教育と植物ウイルス研究」 15:30 - 15:50 | 奈良県立青翔高等学校 | 水本祐之 |

7. 次世代の園芸研究を見据えた先端ゲノム研究(第5回)

日時: 3月23日(金)15:00~18:30

場所: 教室棟202教室

世話人: 白武勝裕(名古屋大院生命農学研究科) shira@agr.nagoya-u.ac.jp

内容:

| | | |
|-------------|---|------|
| 15:00~15:10 | 「はじめに」 名古屋大院生命農学研究科 | 白武勝裕 |
| 15:10~15:55 | 「植物二次代謝機能ゲノミクスと分子育種への応用に向けて」 奈良先端科学技術大院バイオサイエンス研究科 | 峠 隆之 |
| 15:55~16:40 | 「経時測定データに対する統計的モデリング手法とゲノム, 農業データへの応用」 滋賀大データサイエンス学部 | 松井秀俊 |
| 16:40~16:50 | 休憩 | |
| 16:50~17:20 | 「果樹の先端ゲノム研究はバリュー・イノベーションを創出できるか」 農研機構果樹茶部門 | 山本俊哉 |
| 17:20~17:50 | 「先端ゲノム研究がもたらす野菜育種の将来像 - 日本と海外, 民間とアカデミア-」 タキイ種苗(株) | 福岡浩之 |
| 17:50~18:20 | 「園芸学研究は新しい生物学の流れをどう取り入れて発展して行くべきか」 名古屋大院生命農学研究科 | 白武勝裕 |

8. 第25回日本イチゴフォーラム

日時: 3月23日(金)15:00~17:00

場所: 教室棟305教室

世話人: 沖村 誠(農研機構九沖農研) toma23@affrc.go.jp

内容:

| | | |
|------------------------|------------|------|
| 「イチゴ大規模経営の現状と課題」 | 農研機構九沖農研 | 壇 和弘 |
| 「農研機構国際イチゴシンポジウムの概要報告」 | 農研機構野菜花き部門 | 岩崎泰永 |
| その他 | | |

9. 第22回ネギ類研究小集会

日時: 3月23日(金)15:00~17:00

場所: 新教室棟211教室

世話人: 塚崎 光(農研機構東北農研) tsuka@affrc.go.jp

内容:

| | | |
|---------------------------|---------------|-------|
| 講演1 「ネギの免疫活性化作用」 | 農研機構野菜花き部門 | 上田 浩史 |
| 講演2 「茨城県のネギ生産における現状と産地課題」 | 茨城農総セ専門技術指導員室 | 貝塚 隆史 |

10. 栽培系・環境制御系融合型施設園芸研究

日時: 3月23日(金)13:00~15:00

場所: 教室棟102教室

世話人: 嶋津光鑑(岐阜大応用生物科学部) tshimazu@gifu-u.ac.jp

内容:

1. 話題提供(仮題)

「あなたの考えたハウス環境計測制御を生産者に—UECS+Fabで高度環境計測制御の研究を」

近畿大生物理工学部
「中小規模温室のCO₂施用栽培試験における計測・制御で苦労したこと」
奈良農技セ

星 岳彦
仲 照史

2. 分野別グループディスカッション

- (1)UECSとそれを利用するソフトウェアの展示やデモ
- (2)CO₂施用とCO₂センサー
- (3)その他環境データの利用法について

※環境制御が専門ではないが、施設園芸に関する研究に取り組んでいる方を中心に、現在直面している問題点・これから知りたい疑問点などを少人数のグループで情報交換します。参加は自由ですが、事前に代表者(嶋津)にメールで参加のご連絡をいただくとありがたいです。そのときに、自由討論で取り上げてほしい内容を書いていただければ、ディスカッションのテーマに採用します。

※問い合わせとして想定している分野

環境制御(CO₂施用、除湿、生育モデルなど)、補光(LEDなど)、エネルギー(ヒートポンプ、遮光、遮熱)、情報通信(ICT、ビッグデータ、AIなど)、シミュレーション(光合成、気流、温度)、それらのランニングコスト・イニシャルコストなど

11. アスパラガス研究小集会

日時: 3月23日(金)15:00~17:00

場所: 教室棟307教室

世話人: 浦上敦子(農研機構野菜花き部門) atsuko@affrc.go.jp

内容:

講演1「アスパラガスの栽培技術の知識をコンテンツ化」の取り組み

明治大農学部

元木 悟

講演2「未定」